

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名 リールズメイト足立花畑

公表日 : 2025年 3月 10日

利用児童数 : 32名

回収数 : 8名

| | チェック項目 | 評価 | | | | ご意見 | ご意見を踏まえた対応 |
|----------------------|---|----|---------------|-----|-------|---------------------------------|---|
| | | はい | どちらとも いえない | いいえ | わからない | | |
| 環境・ 体制 整備 | 1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。 | 5 | 2 | 0 | 1 | | |
| | 2 職員の配置数は適切であると思いますか。 | 4 | 2 | 0 | 2 | スタッフさんの出勤人数を知らない。 | 支援スタッフの顔ぶれ含め、日頃の様子を保護者専用ブログを活用してお伝えしていく。 |
| | 3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。 | 6 | 1 | 1 | 0 | | |
| | 4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。 | 4 | 3 | 0 | 1 | | |
| 適切な 支援の 提供 | 5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。 | 5 | 1 | 2 | 0 | 教週間の間に複数回同内容の事故の報告を受けた。 | 日々の支援やモニタリングの機会等を活用し、お子様の個性やニーズの相互共有により安全な支援体制確保に努めていく。 |
| | 6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。 | 5 | 2 | 0 | 1 | | |
| | 7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。 | 6 | 2 | 0 | 0 | | |
| | 8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。 | 6 | 1 | 0 | 1 | | |
| | 9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。 | 7 | 1 | 0 | 0 | | |
| | 10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。 | 8 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。 | 1 | 1 | 2 | 4 | あるか分からないけれど、特に無理して交流する必要性を感じない。 | 機会の提供に加え、意義・目的についても丁寧に伝えるよう努める。 |
| 保護者 への 説明 等 | 12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。 | 6 | 2 | 0 | 0 | | |
| | 13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。 | 6 | 2 | 0 | 0 | | |
| | 14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。 | 1 | 1 | 3 | 3 | コロナの事があり、今は難しいのではないのでしょうか。 | 機会の提供に加え、意義・目的についても丁寧に伝えるよう努める。 |
| | 15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。 | 6 | 2 | 0 | 0 | 毎回の送迎の時のフィードバックがとても丁寧です。有難いです。 | 引き続き、日頃の様子を保護者専用ブログを活用してお伝えしていく。 |
| | 16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。 | 5 | 1 | 1 | 1 | | |
| | 17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。 | 4 | 4 | 0 | 0 | 子供達をととても大切に下さっているのが伝わっています。 | 引き続き、日々の支援やモニタリングの機会等を活用し、お子様の個性やニーズの相互共有に努めていく。 |
| | 18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。 | 0 | 0 | 3 | 5 | あるかどうか分からないけれど、必要とも思わない。 | 機会の提供に加え、意義・目的についても丁寧に伝えるよう努める。 |

| | | | | | | | | |
|---------|----|--|---|---|---|---|------------------------|---|
| | 19 | 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。 | 4 | 3 | 0 | 1 | | |
| | 20 | 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。 | 5 | 2 | 1 | 0 | | |
| | 21 | 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。 | 5 | 1 | 2 | 0 | | |
| | 22 | 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。 | 6 | 1 | 0 | 1 | | |
| 非常時等の対応 | 23 | 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。 | 5 | 1 | 1 | 1 | 車の送迎時、夏場の置き去り事故が心配です。 | 置き去り防止装置設置について、日頃の様子を保護者専用ブログを活用してお伝えしていく。 |
| | 24 | 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。 | 6 | 1 | 0 | 1 | 車の送迎時、夏場の置き去り事故が心配です。 | 置き去り防止装置設置について、日頃の様子を保護者専用ブログを活用してお伝えしていく。 |
| | 25 | 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。 | 5 | 2 | 0 | 1 | 過去に複数回同じ扉から離設しています。 | 日々の支援やモニタリングの機会等を活用し、お子様の個性やニーズの相互共有により安全な支援体制確保に努めていく。 |
| | 26 | 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。 | 5 | 1 | 1 | 1 | 他デイサービスの方から情報を得たことがある。 | 日々の支援やモニタリングの機会等を活用し、お子様の個性やニーズの相互共有により安全な支援体制確保に努めていく。 |
| 満足度 | 27 | 子どもは安心感をもって通所していますか。 | 5 | 3 | 0 | 0 | | |
| | 28 | 子どもは通所を楽しみにしていますか。 | 6 | 2 | 0 | 0 | | |
| | 29 | 事業所の支援に満足していますか。 | 5 | 3 | 0 | 0 | | |

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

| 事業所名 | | リールズメイト足立花畑 | | | | 公表日 2025年 3月 10日 | |
|---------|--------|--|-----|---------|-------------------------------------|--|--|
| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 | | |
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 8 | | 開所時に必要なスペースは確保されている。 | | |
| | 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。 | 6 | 2 | 経験が浅い職員しかいない中で話し合っている。 | 職員は毎日5名は必要。職員不足で児童の要望に応えられない時がある。人員基準は満たしているが、職員の質が足りていない。 | |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 8 | | コロナ禍の影響で長テーブルではなく個々に折り畳みテーブルを使っている。 | 児童のスペースは問題ないと思うが、職員のスペースについては完全が必要。クールダウン時に使う個室が必要。 | |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | 6 | 2 | 設備が古くなってきているものが多くなくなってきているので改善中。 | フロアカーペットが汚い・クッション性がなく冬は寒い。 | |
| | 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | 6 | 2 | 個室がないためトイレを個室としてクールダウンに使用。 | 個別の空間や部屋がない。痾痾時・パニック時のクールダウンできるスペースが確保できず、現在はトイレを使用中。 | |
| 業務改善 | 6 | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。 | 8 | | ほとんどの職員はできている。やろうとする意志がある。 | PDCAの意識が低い職員が一部いる。職員によって差がある。 | |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 8 | | | | |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 8 | | ほとんどの職員はできている。 | 個別に意見を言うことはできるが、改善までは行えていない現状。一部の職員が出来ていない。やる意思を感じない。 | |
| | 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | 6 | 2 | 行えていない。 | 第三者評価をしていない。 | |
| | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | 8 | | | | |
| 適切な支 | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | 8 | | | | |
| | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 | 6 | 2 | 保護者のご都合により、面談ができない為、アンケート形式で行っている。 | 預かりがメインな印象。保護者の意向？ | |
| | 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | 6 | 2 | 保護者のご都合により、面談ができない為、アンケート形式で行っている。 | 支援計画を作るのが大変でモニタリング・支援会議の実施ができていない。職員全体で話し合う場面がない。 | |
| | 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | 6 | 2 | 保護者のご都合により、面談ができない為、アンケート形式で行っている。 | 預かりで手一杯な印象。個別支援計画書更新後の共有がないことがほとんど。 | |
| | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | 8 | | 業務後の振り返りで共有は行えている。行える職員で行っている。 | 一部の職員ができていない。 | |
| | 16 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 8 | | | 5領域記載して支援計画を作成しているが、適切とは言えない状況。 | |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | 8 | | 管理者・児発管・指導員で行っている。 | 発言・立案する職員が偏っている印象。 | |

| | | | | | | |
|--|----|--|---|---|--|---|
| 援 の 提 供 | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | 8 | | 固定かしないように支援員・管理者で話し合っている。 | 活動名は同じでも行う内容が被らないように工夫している。 |
| | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。 | 8 | | 利用者の特性に応じて作成している。 | |
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | 6 | 2 | ミーティングを行い、統一した支援・対応の共有を行っているが、意思疎通が難しい職員がいる。 | ミーティングは行っているが、スタッフ間で連携できているかは疑問。 |
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | 8 | | 業務後に一日の振り返りは毎日行っている。 | 振り返りは行っているが、気づきの面で弱い印象。 |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | 8 | | | 記録は取っているが、改善できているかは不安。 |
| | 23 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | 6 | 2 | 月1回全体会議を行う際に児童の対応や支援について話し合う場を設けている。 | 児童の送迎に追われて児童の様子を見る時間の確保が難しい状況の職員も一部いる。 |
| | 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。 | 8 | | | |
| | 25 | こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。 | 8 | | 児童の特性に合わせて行っている。 | |
| 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 | 26 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | 6 | 2 | 開催されていない。 | 開催されていない。 |
| | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | 6 | 2 | 連携できていない。 | 連携できていない。 |
| | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。 | 6 | 2 | ほぼできていない。 | ほぼできていない。 |
| | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。 | 6 | 2 | できていない。 | できていない。 |
| | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。 | 6 | 2 | 違う地域の放デイの事業所との交流を定期的に行っている。 | できていない。 |
| | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。 | 6 | 2 | できていない。 | できていない。 |
| | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。 | 6 | 2 | できていない。 | できていない。 |
| | 33 | （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。 | 6 | 2 | できていない。 | できていない。 |
| | 34 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | 8 | | 毎日の振り返りの中で共有を行っている。 | その日の様子は伝えているが、課題などの共通理解が一部の職員ができていない現状。 |
| | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | 6 | 2 | できていない。 | できていない。 |
| | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | 8 | | | |
| | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | 8 | | | 半年ごとの面談・アンケート実施。アンケートの実施は認識しているが、フィードバックの共有はない。 |
| | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。 | 8 | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|--|---|---|--------------------------------|---|
| 保護者への説明等 | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | 8 | | 必要な時は行っている。 | |
| | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。 | 6 | 2 | できていない。 | できていない。 |
| | 41 | こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | 8 | | | |
| | 42 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。 | 6 | 2 | 毎日の活動等の写真は撮っている。 | できていない。HP更新が止まっている。そこまで行う時間的・精神的・体力的な余裕が確保できていない。 |
| | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | 8 | | | 意識して取り扱っているが、十分ではない。 |
| | 44 | 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | 8 | | 児童の特性に合わせて行っている。 | |
| | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | 6 | 2 | できていない。 | できていない。 |
| 非常時等の対応 | 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | 8 | | | |
| | 47 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | 8 | | | |
| | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。 | 8 | | | |
| | 49 | 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | 8 | | 保護者の方から教えてもらい、対応を行う。 | |
| | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | 8 | | 行っている。 | 安全計画はあるが、訓練や処置は十分ではない。 |
| | 51 | こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | 8 | | | |
| | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | 8 | | 毎日の振り返り時に共有から再発防止策の検討までを行っている。 | 一部の職員については方策については検討できていない。 |
| | 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | 8 | | | |
| 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | 8 | | | | |

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|--------------|----|--------------|
| ○事業所名 | リールスメイト足立花畑 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2024年 12月 1日 | | 2025年 1月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 32 | (回答者数) 8 |
| ○従業者評価実施期間 | 2024年 12月 1日 | | 2025年 1月 31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8 | (回答者数) 8 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 3月 1日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 集団活動の活動内容が固定化されないように工夫している。 | 季節を感じれる創作や活動であったり、外出活動、室内活動などを意識して取り入れられるように月1回の全体会議にて活動内容について話し合う機会を設けている。 | 違う事業所の活動も積極的に取り入れたり、児童や保護者の方からのご希望をアンケートでヒヤリングを行い、利用者の希望に沿った活動を行うことで満足度を高めていく取り組みを行う。 |
| 2 | 児童が過ごす場所・使用する場所は児童にとって分かりやすく構造化された環境になっている。 | スケジュールや時間、遊ぶ場所、宿題・課題を行う場所を目で見える形で可視化している。職員からの児童への声掛けも明確で具体的な声掛けを行うことができる。 | より目で見える形で可視化できるようにより分かりやすいように色やイラストを使用する。また絵カードやマカトンサインなど児童の特性に合わせて適切な対応を行えるよう全体会議で話し合いの機会を設ける。 |
| 3 | 支援終了後には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有できている。 | 毎日支援終了後にその日の職員で振り返りを行い、問題行動やヒヤリハット等の背景や解決策や今後の対応などの話し合う場を設けている。 | 振り返りに参加できない職員の方についても書面でその日の振り返りをできるように環境整備を行っていく。 |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|--|--|
| 1 | 課題：開所した当初の設備を使い続けている為、毎日清掃は行っているが、清潔に保っているとは言えない環境。 | 最低基準の職員はいるが、職員一人一人の仕事量が偏っている為、環境整備を行う時間や体力に余裕がない。余裕がないため手が届いていない状況。 | 管理者・児発管・指導員関係なく雑務等の業務や環境整備を行えるように全体会議等で共有の場を設ける。誰でも行えるようになれば偏って業務の負担軽減につながる。 |
| 2 | 課題：職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげる。 | 全体会議・リーダー会議等でも固定の決まった職員が話すことが多い。言いたいことがあっても全体の前だと意見を発言しにくいことがある。会議後に個別に伝えられる。またパートの社員の方の参加が難しいことが多い。 | より多くの職員の方が参加できるように会議を行う日程をできる限り早めに周知してシフト作成時に全員が参加できるように努める。 |
| 3 | 課題：定期的に通信を発行することやHPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこども保護者に対して発信している。 | 最低基準の職員はいるが、職員一人一人の仕事量が偏っている為、環境整備を行う時間や体力に余裕がない。退職者がいた際にやり方の引継ぎがされなかったり、引継ぎを行うことが困難な状況。 | 退職する職員がいなくとも、全職員誰でもできるようにやり方の共有やマニュアルの場所の共有を行う場を設ける。または引き継ぎができる環境の整備を行う。 |

事業所名

リールスメイト足立花畑

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日

2024 年

9 月

1 日

| | | | | | | | | | |
|-----------|-----------------|--|------------|---------|------------|---------|---------|---|-----------------------------|
| 法人（事業所）理念 | | 子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を図るため、保護者や地域社会と力を合わせて子どもを主体とした福祉の推進に積極的に取り組みます。 | | | | | | | |
| 支援方針 | | 多様な活動・体験機会の提供を通じて、現在抱える子どもの困り事や生き辛さを改善し、子ども達が自分らしく生き抜く力を育み支える。 | | | | | | | |
| 営業時間 | | 平日 土・祝・長期休暇 | 13 (10) | 時 0 分から | 18 (16) | 時 0 分まで | 送迎実施の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> あり | <input type="checkbox"/> なし |
| 支 援 内 容 | | | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 事業所スタッフにより来所時の健康チェック、来所時や飲食前、トイレ使用後等の手洗い等を通じ、健康を保持しつつ活発な活動参加ができるよう支援。 ご利用児童の特性に合わせ、構造化を意識した部屋のレイアウト・掲示・支援により、安心・安定して通所・活動できるよう支援。 保護者との密接な連絡調整と連携により、定期的なご利用を促進し、児童本人の生活リズムの形成・安定を図る。 | | | | | | | |
| | 運動・感覚 | ストレッチ・体操・サーキット活動等の提供により、姿勢および運動や動作の基本的技能を維持・向上を促進。 音楽に合わせて身体を動かす活動等の提供により、児童が保有する聴覚・視覚・触覚など感覚を刺激し、十分に活用することを促進。 (児童ひとりひとりの身体の状態に合わせ必要な場合)活動時間中に適切な姿勢保持装置や車いすを活用することで、姿勢の保持や移手段の確保を図る。 | | | | | | | |
| | 認知・行動 | 支援スタッフが児童ひとりひとりの認知の特性を理解・把握するよう努め、それらを踏まえて児童が自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援。 粘土細工などの創作活動の提供により、児童が視覚・触覚・嗅覚などを通じて物の形や色・重さが変化していくことを体感し、認知機能の発達を促進。 外出（散歩）活動の提供により、児童が季節の移り変わりによる様々な変化を自ら体感することで、過去の情報と照らしつつ環境の状況や変化を把握・理解できるよう支援。 | | | | | | | |
| | 言語 コミュニケーション | はじまり（終わり）の会等の機会を通じ、コミュニケーション（言語・非言語のやり取り）により、相手の意図を理解することや自分の考えを伝えられるよう支援。 活動中の意図的な声掛け等により、ご利用児童ひとりひとりの発達状況や興味・関心に合わせ、言語・表情や身振りなどを用いて意思を伝えることを促進できるよう支援。 散歩活動中等の声掛けにより、個々に合わせた環境設定により相手と同じものに注意を向け、徐々にその行動や意図を理解していくことを促進。 | | | | | | | |
| | 人間関係 社会性 | 活動中や活動前後の事業所の支援スタッフとの密なやり取りにより、多様な他者との関わりの機会および環境を提供することで人間関係形成の促進。 感覚機能や運動機能を刺激する集団活動（例：ダンス活動等）の提供により、他の児童と活動に参加することの楽しみを感じることで、社会性を促進。 ご利用児童ひとりひとりの関心や理解度に合わせつつ、ルールのあるゲーム活動の提供により、集団に参加する楽しみや手順を徐々に理解できるよう支援。 | | | | | | | |
| 家族支援 | | ご利用児童を支える保護者・家族のレスパイト、就労確保の預りニーズに対応し、必要に応じて延長支援を実施。児童の発達状況を相互に理解し合えるよう定期的に情報交換を実施。 | | | | 移行支援 | | 学童保育を併用している場合の連絡調整を行い、必要に応じて移行支援。希望の進路先を見据えた本人・保護者等との相談援助を実施。 | |
| 地域支援・地域連携 | | ご利用児童がスムーズな生活を送れるよう、通学先の学校の先生、併用している他の支援事業所担当者との連絡調整や連携の実施。 | | | | 職員の質の向上 | | 年間研修計画に基づき、計画的かつ定期的に全職員および職層別の研修を実施する。 | |
| 主な行事等 | | 新年度の目標立て（4月）、夏祭り・水遊び（8月）、ハロウィン（10月）、クリスマス会（12月）、外出活動、SST、お誕生日会（毎月） | | | | | | | |